［第 153 回藤樹人間学塾のご案内］

皆さま　　令和 6年 8 月

主　催　NPO法人高島藤樹会

■ 日　時　**令和 6　年 9　月　14　日　（土）**　15時～17 時
■ 場　所　高島市安曇川公民館（高島市安曇川町田中89）☎0740-32-0003
■ テーマ　「藤樹先生に学ぶ人間学」
　テキスト　熊沢蕃山著・伊東多三郎現代文訳『集義和書』（中央公論社）p.186～
　塾　長　　田中 清行（090－1026－7882）

2024 年 8 月 3 日（土）、第 152 回藤樹人間学塾を開きました。今回は、京都市から1名、大津市から 3 名を入れて 9 名（うち女性 3 名）の参加でした。

■　テキスト
『中江藤樹・熊沢蕃山』（中公バックス日本名著）

■ あらすじ
「集義和書」書簡の 1　太公望、中華の国の盛衰、家老の学問の心がけ　を輪読し、説明しました。

■ 配布資料
（1）「熊澤蕃山物語」、（2）「まなざし 471 号」、（2）出口治明『哲学と宗教全史』の中の「孔子、…」、（3）横田南嶺・栗山英樹「さらに参ぜよ三十年」（致知）、（4）NHK こころの時代　勝田茅生『ヴィクトール・フランクル』「④人生という砂時計」

■ 今日のポイント
（2）中華の国の盛衰…聖賢時代は文が明らかで武も備わっていたので北方の敵も攻めて来なかったが、武が弱くなると北方の敵に攻め込まれ、戦乱の世となった。文と武の両方が備わることが大事である。
（4）「さらに参ぜよ三十年」…「WBC で優勝して沢山の人に好評価をもらって感じたのは“ああ、こうやって人はダメになるんだな”という思いでした」…拍手喝采は人を愚かにする道なり
（5）人生という砂時計…人生が砂時計だとしたら、私たちの現在は中心のくびれた部分。刈り取られる畑（上部の砂）よりも収穫されたもの（下部の砂）を見る。死とは新しい別の世界で目覚めることかもしれない。

■ フリートーキング
・「熊澤蕃山について直接著者に接することによってどのような行いをされてきた方なのか、興味を持った」
・「5 月に親友を亡くし悲しんでいたが、フランクルの話を聞いて心に刺さった」
・「お坊さんから「善行をして褒められたらプラスマイナスゼロ」と聞いたことがある。「慎独」が大事だと思った」
・等の意見をいただきました。ありがとうございます。

皆で学ぶと議論が深まります。学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。